

事業所名

ビーフレンズ 上桂西校

支援プログラム

作成日

R7年

10月

1日

法人（事業所）理念	「視覚あそび」「体幹あそび」「自立れんしゅう」の三大療育を軸に掲げ、当所独自の療育を実践することで、日常生活の中で目に見える変化を児童本人にも保護者にも実感していた。保護者と情報を共有し協力を得て行う「協育」を理念に、地域の方々や保護者と一緒に子どもの豊かな心を育てていくことを目指す。				
支援方針	視覚あそび(個別療育)…情報をしっかりと目でとらえるため、視覚トレーニングとして目の準備体操と紙面を使った様々な視覚あそびを、スタッフと1対1で行う。 体幹あそび(集団療育)…身体の軸をつくり呼吸を深くし脳を活性化するため、理論に基づいた多数のトレーニング方法をスタッフと一緒に遊びながら行う。 自立れんしゅう(集団療育)…社会での自立に向けて、身の回りのことが自分でできる、生きる力を育てることを目標に、「食べる」をテーマに繰り返し練習する。				
営業時間	9時	30分から	18時	30分まで	送迎実施の有無 <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	栄養士が作り提供するおやつやクッキングを通し、季節感や日本の伝統を知ったり、様々な食材や調味料に触れられるようにしている。また、調理活動では、自分たちで考え判断しながら食材を切ったり調理して味付けをしたりすることで達成感を味わい、社会への自立に向けた力を養う。その他、偏食が強い場合は食べられるものから少しずつ苦手なものも食べてみることを繰り返し、食べられるものを少しずつ増やしていけるようにしていく。また、日々の療育の総まとめとして、公園や様々な施設へのお出かけ活動を行い、順番を守る、交通ルールを守って道路を歩くなど、日常生活に必要なスキルを養い実践する場になっている。			
	運動・感覚	視覚あそびとして、対象を眼球運動で追いかけて見続ける「目の準備体操」と紙面にランダムに配置された数字を順番通りに正確に指を指していく「ナンバータッチ」を中心に、眼球運動の向上することで集中力や学習の力を養っていく。その上で、体幹あそびで足裏への刺激を取り入れつつダイナミックな動きや体の姿勢を保ち保持する運動を理論に基づいて提供し、体幹の筋力の他、平衡感覚も養っていく。また、工作も積極的に取り入れ、手指の巧緻性や感覚を養っている。ナンバータッチ以外にも、点繋ぎや間違い探しなど、児童のレベルに応じて難易度を設定できるようにしている。			
	認知・行動	物事の始まりと終わりを重視し、来所時・退所時、食事の開始時・終了時など、場面ごとにご挨拶を取り入れて気持ちの切り替えを体感しながら学べるようにしている。また、視覚支援を活用しながらスケジュールや時間を意識して行動する、気持ちを切り替えて次の行動に移るなど、日常生活を送る上で必要な情報を取り入れながら自分で判断し行動する力を養っている。			
	言語 コミュニケーション	モチベーションアップのトレーニングとして、前向きな言葉で声掛けを行いプラス思考や楽しい気持ちで活動に取り組めるようにしている。また、発語がまだ難しい児童には、絵カードや本人が理解している単語で伝えるなど、コミュニケーションツールを1人1人に合わせて作って活用し、発語を促したり簡単な意思疎通を図る練習を重ねている。			
	人間関係 社会性	体幹あそびや調理活動、その他自由あそびやお出かけ活動の際には、お友達と一緒に参加する内容を取り入れて、相手と一緒に話し合う・自分の意見を相手に伝える場面を作っている。これらを通して、お友達と一緒に楽しみながら交友を深めると共に、他者と協力する大切さや達成感、満足感を味わえるようにしている。また、必要に応じて職員との個別の時間を設け、集団だけでなく個としても対人関係、社会性を培える環境を設定している。			
家族支援	ペアレントトレーニング、保護者への個別相談、関係機関とのケース会議	移行支援	関係機関との連携会議、医療機関・リハビリ施設での施術の見学		
地域支援・地域連携	児童館交流、地域散策	職員の質の向上	年間研修計画、療育会議		
主な行事等	夏祭り、ハロウィンパーティー、クリスマスパーティー、お餅つき、系列事業所同士での交流会				